

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690200106		
法人名	医療法人 三幸会		
事業所名	ケアサポートセンター千本今出川		
所在地	京都府京都市上京区元誓願寺通千本東入四丁目424番地の2		
自己評価作成日	平成29年1月18日	評価結果市町村受理日	平成29年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JygyosyoCd=2690200106-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都府京都市下京区西木屋町通上ノ口上の梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	平成29年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

西陣のイメージに合せた町屋風の建物となっており、木のぬくもりを感じられるような家具を配置している。清潔感を大切に整理整頓や掃除を行なうようにしている。近隣には、障害者施設や児童館があり、毎月児童館との交流会を開催している。商店街や神社なども多数あり、散歩や外出を積極的に行うようにしている。
2週間に1回のフラワーセラピーや2ヶ月に1回の音楽療法・児童館との交流会・行事など毎月職員とご利用者やご家族と共に楽しんで行えるような企画がある。
ご利用者のペースを大切にしており、決まったプログラムは無く、ゆったりとした雰囲気の中で日常生活ができるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

歴史と伝統の街、京都西陣の町家に囲まれた環境の中に、周囲の雰囲気に合わせるような外観に設えられた小規模多機能型事業所が併設されているグループホームである。開設から5年目の新しい事業所であるが、地域との関係はすでに深く、町内会の役員を経験したり、隣接する児童館とは毎月のお楽しみ会や交流、中学校とは福祉体験学習のための訪問など、交流の頻度は高く、利用者もそれぞれの来訪者との交わりを待たれている。その他に、フラワーセラピーの先生が来られ、作品は利用者の自室やフロアに飾られている。更にボランティアによる音楽療法士の定期的な来訪もあり共に、開設来継続され、充実したレクリエーションになっている。一方職場環境においては管理者が職員のシフト作成に配慮を重ね、どうしたら職員が長く働き続けられるかを自らの経験を踏まえ考え取り組まれている。当現場では子育て中の職員は管理に携わる職員も含め多く、ワークライフバランスを念頭にいれ、シフトや人材投入を工夫し定着率を高め、チームワークにも反映されていることが理解できた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念1.話をよく聴き、語り合い、ともに歩みます。2.あたたかい医療、介護を目指します。3.患者様、ご利用者様ならびにそのご家族、地域の皆様、われら医療人の幸せを目指します。事業所の理念「一日一笑」「一喜一憂」「一期一会」を意識し、ご利用者様のカンファレンスや常の記録を書くように意識している。	事業所の理念、「一日一笑」、「一喜一憂」「一期一会」は開設間もないグループホームに揃った全職員で法人理念を踏まえ決めた理念である。玄関には法人理念と共に掲示され、パンフレット、広報紙にも大きく掲載されている。家族アンケートには「職員の皆さん明るく、来訪者や利用者への声掛けも多い」「職員がいきいきしている」の声が寄せられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、回覧板や年に1回の親睦会に参加。地域の中学校の運動会や児童館との交流会に参加している。千本商店街の催し物や今宮際も毎年ご利用者は参加されるのを楽しみにされている。	町内会、児童館、中学校などとの交流を積極的に進め開設5年目であるがすでに定着している。併設事業所と合同で夏祭りを開催し、地元の地域や児童館等に参加を呼び掛け、賑わっている。年一回の町内会の親睦会には事業所が町会の役員を務めたこともあり参加し、交流の機会になっている。中学校とは運動会への参加や体験学習生の受け入れを行っている。児童館とは毎月交代で、それぞれ出し物を考え、ゲーム等に興じている。以上は利用者の楽しみになっており、双方向の交流にもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所から地域に向けての活動は行えておらず、地域の方から認知症へのご相談など、分かり易く説明などをするようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	小規模併設にて、サービス評価の実施などを通じてご家族や町内の方から意見を聞くことができる。特に、事故報告や苦情に対するの改善方法などは会議の際には必ず報告をし、質の向上につなげている。	会議メンバーは利用者、家族、地域役員、地域包括センター職員である。2ヶ月1回開催され、主催者側から、2か月間の事業報告をしている。地域包括センターからは地元の地域情報や認知症カフェへの手伝い要請などが出されている。議事録は区役所の担当部署、家族には情報共有のため議事録を郵送している。	当会議は地域福祉の情報交換の機会でもあり、地元の女性団体や、中学校の先生などにも声をかけ、地域の情報の交換や地域密着型事業のことも認知症の啓発の機会に活かされてはいかがでしょうか。検討を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2が月に1回の上京事業所連絡会や地域ケア会議への参加。また、困難事例の相談などを上京介護保険課へ必要に応じて行い、情報の共有を行うようにしている。	左記の他、年2回の地域ケア会議では地域事業所、民生委員、消防、警察、役所とともに防災に関する見直しや困難事例等の議題で話し合いがなされている。2ヶ月に1回の上京事業所連絡会にはケアマネジャーが参加し、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内研修に参加し、職場内にて伝達研修を行っている。マニュアルの見直しも行なっている。日中の施錠は行わないということが職員全体理解できている。	当該マニュアルが設けられ、法人内研修を受け、伝達研修をホームで行い職員への周知を図っている。転倒が案じられる事例について、職員間、家族、主治医と対応を検討し、安全確保の観点から、時間や期間を定め、センサーの利用に至った例もあり、記録が残されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人としてマニュアル・研修があり、カンファレンスにおいて、日頃から虐待や接遇に関して話し合いを行うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関しては、現在利用されている方はおられないが、小規模では利用されている。知識として乏しいのが課題であり、外部研修などに参加できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年度新規契約や解約は発生していないが、契約の場においては、管理者と介護支援専門員と一緒に話し、分かり易い説明や不安を引き出せるような雰囲気心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族の意見や要望に関して、迅速に対応できるようにしている。ご利用者自身、外出や外食の希望があり、その都度対応している。	毎年3月に家族会を実施し、家族との交流とともに、意見、要望を聞く機会にもなっており、9名中8家族が参加されている。家族は2ヶ月1回のたより「はんなり」を楽しみにしているとの発言、なじみの職員の異動の寂しさ、利用者の高齢化に伴う人員体制についての気づかい等が交わされている。情報交換の後は、家族と利用者でおやつを作って食べたり、食事をするなどの機会とし、家族間の親睦を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、契約更新時においてまた、個別に面談を行い、職員の考えや思いを聞くようにしている。	2ヶ月に1回、併設の小規模多機能事業所と合同で運営会議を行う他、毎朝1回の申し送り、ケース検討会議は適宜実施している。管理者は職員のシフト作成には非常に配慮を重ね、どうしても長く働き続けられるかを自らの経験も踏まえ、考え取組まれている。当現場では子育て中の職員は多く、ワークライフバランスを念頭に置きシフト作成、人材確保に努め、定着率に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	4月に理事長との面談があり、1年間の事業所としての取り組みや課題を伝える機会があり、その際にはアドバイスや激励をしていただくことがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、個人目標設定シートを記入してもらい、希望や必要に応じて研修に参加できるようにしている。法人内でのスキルアップ研修や研究発表の機会もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所連絡会に参加し、他の法人と関わる機会があり、勉強会にも積極的に参加できている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期のご利用者に関しては、不安や戸惑いがあるのがあたり前だと理解し、コミュニケーションを図ると共に、ご家族に面会を依頼したりとご協力をいただくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人・ご家族それぞれの立場になってまずは、理解するように努めている。介護職員として適格にアドバイスができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅での介護をされて、限界を感じたうえで又他のサービスを利用されたうえで入居される方が多いため、ご本人やご家族が今何に困っておられるかをしっかりと把握し、一緒にプランをつくるように意識している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全てに介助をするのではなく、一部できない所をお手伝いする。その為には、手順を説明したり、ご利用者同士がお手伝いをしたりと、職員で全て行わない様に日頃から話し合っケアを行なっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとって、一番大切なお家族であり、ご家族が来てくれることが何より安心に繋がる。そのご家族がいつでも面会に来やすいような雰囲気づくりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出先などは、ご利用者が馴染みであった場所など選ぶようにしている。	普段の生活の中で、話題や関心に上がっているステキハウス、馴染みの美容院、スーパー、喫茶店など、利用者個々人の希望を汲んだ外出支援に努めている。他法人の事業所で開催される演奏会に要望あれば出かけることもある。身内・友人の来訪、遠方から電話があれば居室に電話を移動し、いずれもゆくり話ができる配慮されている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「自分のことは自分です」というご利用者が多く、洗濯物の仕分けや、衣類たたみ・調理・レクなど個人でもするが、団体で行うことも日々の中で意識してやるようにしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されると、様子を伺いに行ったり、ご家族と連絡をして現状の様子や、今後の相談などを聞く様にしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人にまずは、聞くようにしているが、状態の変化により、ご家族からも本人の嗜好・意向・希望など普段の会話から聞き出し把握し記録に残すようにしている。	利用者の自宅での過ごし方や、生活歴、意向、希望などは初回面接でも収集されているが、ホームでの日々の暮らしを通し、聞き・観察の中から利用者の思いや意向を把握するとともに、家族から具体的に聞き取り、ケアに反映すべく、一緒にプランを作ることを意識し取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記の同様に、ご本人やご家族から以前の生活歴や生活環境を聞くようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	集団で生活はしているが、個々に一日の生活の仕方は違っており、職員側の都合に合せず、ご利用者の状況に応じて臨機応変に対応するようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ニーズや課題をチーム全体で共有するが、ご家族の意向や主治医・訪問看護からも意見や相談を行い、本人に関わっている全ての者がチームとなって動けるようにプランを立てている。	介護計画は計画策定担当者が、利用者、家族、医師、看護師など関係者から得た情報をまとめ立案している。アセスメントは施設ケアアセスメントMDSを使い整理をしている。カンファレンスに参加できない職員は、現行プランへの意見・課題・気づきなどをレポートにし事前に提出することとしている。アセスメントは原則半年に1回、変化があれば随時見直し、モニタリングは3ヶ月に1回を目途に実施している。関係書式は法人の統一様式を使用している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には「気づき・思ったこと」の欄もあり、職員がケアをした際に感じたことを記録し、カンファレンスなどで話し合い、プランに繋げている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族も、その時の状況で想いやニーズが変化する。ご家族の中でも、想いが違う事があるため、現状の職員数で可能であることは、出来る限り取り組んでいきたいと思っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣には児童館があり、障害者施設、商店街や神社・お地藏様多数あり、散歩をすれば声掛けをもらえる環境である。そのような環境なこともあり、散歩が大好きで、楽しんでおられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度往診があり、それ以外の受診が必要な場合は、かかりつけ医や訪看、職員とご家族が相談のうえ、迅速に受診できるように支援している。	地域には医療機関が多く、従来からのかかりつけ医を主治医とする利用者は多い。往診の他、専門機関への受診は、職員や家族が付き添い対応している。主治医から近隣の専門医療機関への紹介もあり、迅速かつ柔軟な対応がされている。ケアマネジャー、医師、訪問看護師・医療機関との連携も密で、情報共有ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜は訪問看護が入り、24時間にも応じてもらっている。また、併設の小規模の看護師にも相談をして適切なアドバイスをもらい対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となった場合は、管理者・ケアマネがすぐに病院へいき、情報交換を行い、必要に応じて病院カンファレンスにも参加している。地域連携室とご本人の状態の確認など、こまめに話すようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当者会議やプランの説明時などの際にはご家族の意向を聞くようにしている。実際当事業所ではターミナルの経験はない。	ターミナルケアについては重要事項説明書に記載され説明もされているが実績はない。事業所としては法人内のターミナルケア研修は受けている。ただ、「医療に繋いでほしい」と希望する家族が多く、過去利用者は終末期を医療機関で迎えている。	ターミナルケアについては、ホームの歴史と共に求められてくることも考えられ、今後求められてくるであろう課題として、検討を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で、AEDの研修があり参加するようにしている。また、消防訓練の際には、消防士の方にアドバイスや指導をもらうことがある。地域の方へもAEDが設置してある事業所であるということを伝えている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方を巻き込んで消防訓練は行っていない。法人全体としての緊急連絡簿が作成され、自分の自宅から最寄の事業所に駆けつけられるようになっている。非常食などの管理は法人や事業所で行なっている。	消防訓練は利用者、職員で消防署立会のもとで行っている。また地震訓練も今年度から実施している。地域防災訓練には職員が参加し、避難所の再確認をしている。過去、嵐山で水害が発生したこともあり、1Fから2Fへの避難についての指示も受けている。非常食は基本的に法人から支給されるが、事業所も一部、保管し管理を行っている。	日常的には地域との連携が築けている事業所であり、消防署他関係団体に地域との協力体制について相談されておかれてはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症ではあっても、人生の先輩であるということをお忘れずに敬意を持ち接している。職員同士、接遇に関して注意し合える関係を気づいている。	スピーチロックをはじめ、利用者本人の受け止め方を考えた上での接し方、言葉のかけ方に注意を払っている。普段から、職員間でフランクに意見が言い合える職員関係が築かれていることも大切と認識されている。接遇研修については年2回実施され、身体拘束とも合わせ当該課題について情報を交換する機会はある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日、お茶の時間があり、好きなメニューをお聞きしたり、入浴表となるペースはあるが基本はご本人が希望される時間や曜日に入れるように心掛けている。買い物や外食などの希望も取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活において、強制しないということを意識している。時間をあけて声掛けをする・職員が交代をするなどして対応する。決められたプログラムはなく、レクやフラワーセラピーなどご利用者に選んでもらうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ショッピングに出掛けたり、希望があれば訪問美容(毛染め・パーマも可)の申し込みをしたり行きつけの美容院に行かれる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝・昼は外注(たいへい)の注文ではあるがその中でも1品は手作りである。夕食は献立も職員がご利用者の意見を聞いたり、夕食に関しては全て手作りを心掛けている。準備や調理も職員とご利用者一緒に行なっている。	朝食・昼食は外部業者によるメニューであるが、準備や調理は職員と共に利用者も可能な限り、参加している。おやつや夕食は近隣の商店街に材料を発注し、また、不足時は買いに行き、補充するなど柔軟に対応している。献立は利用者の希望を取り入れている。外食は、併設事業所の送迎バスを活用し、寿司店、和食店、うなぎ料理店、喫茶などに出かけ、利用者の楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人シートに食事量や水分・体重などを記入している。ご利用者の中には、食事介助が必要な方もおられるが、すぐに食事介助を行わずご本人の食べたいという想いを引き出せる声掛けや食事介護をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後3回行なっている。ご利用者の状態に合わせて使用する物を変え、定期的に歯医者さんに来てもらい、口腔状態チェックや口腔ケアの仕方のアドバイスをもらっている。必要に応じて歯科往診も依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間生活シートに記録し、排泄パターンを把握し声掛けや誘導をするように行なっている。個人個人に合せて、また、日中や夜間などの時間帯で個人に合ったパットなどを選ぶようにしている。	全介助の方は1人で、テープおむつを利用されている。他の方は、排泄パターンを把握し、誘導や声掛けで、トイレを利用されている。4名が布パンツを使用され、他の方は、リハビリパンツ、パットで対応されている。リハビリパンツ等は発注担当者を設け、全員の排せつ状況を踏まえ、注文する種類を考え対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への動きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では、栄養のバランスを考え献立をたて、水分補給にはスポーツ飲料を寒天ゼリーにして提供するなどの工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者のペースで入浴できるようにしている。入浴剤を好まれる方や童謡などを聞きながら入浴する方もおられ、リラックスした場になるようにしている。	入浴は週に3回程度、利用者のペースに合わせてるようにし勤めている。気が進まない方には翌日に再度声掛けをするなど、柔軟に対応している。一人ひとりお湯の交換をし、入浴剤も好みに合わせ使っている。浴室に童謡を流すなど、一人ひとりのニーズに配慮し楽しめる入浴を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるように、日中活動を促すこともある。また、シーツやパジャマもこまめに洗濯して気分よく入床できるようにしている。夜間寝られない方に関しては、お茶を一緒になんたり職員のそばで落ち着くまで過ごしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬忘れやセットミスがあり、朝に夜勤者と早出が声をだし、お薬の時間や日付の確認を行う。服薬した職員はサインをするなどして対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お掃除や家事、散歩やドライブ、小規模と合同レクや児童館との交流会・フラワーセラピーなど楽しめるようなことを日々提案している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や日常的に行っており、外食や外出などは計画的に行うようにしている。	日々の散歩は周辺に寺院やお地藏さん、商店も多く、散歩をしていると声がかかる環境であり、可能な限り散歩を心がけている。また行事計画汲まれている、花見や祇園祭見物、郊外へのドライブ、外食・喫茶店に出かけるなど、利用者の希望に即した外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人では、立替金を導入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	2ヶ月に1回「はんなり」というご家族あてに手紙を書いている。ご利用者が塗り絵されたり、メッセージを書かれた絵葉書を送ることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心掛け、整理整頓や臭いがないように掃除を行なっている。季節に応じた壁紙や、写真などを貼る。活けたお花を居室や共有スペースに飾るようにしている。	南側に大きな窓があり洗濯物が干せるベランダに通じており、採光は良い。温度、湿度とも快適な状況に設定され、空気清浄機も設置されている。童謡をはじめバリエーションに富んだ音楽が低く流れている。金魚がゆったりと泳ぐ水槽がおかれている。利用者がレクリエーションで取り組まれたフラワーアレンジメントの作品やちぎり絵、塗り絵などが壁に飾られ、利用者はゆったりとした時間の中で洗濯されたり、昼食の仕度を手伝われていたり穏やかに過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良いご利用者が同じテーブルになるように配慮してみたり、職員が間に入り交流をもってもらうように調整する。独りで過ごしたい方もおられるので、ソファを置いたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外は、ご自宅で使用されていた家具などを持ち込んでいただいている。仏壇を持ってこられたり、愛用されている物や写真などに囲まれ、その人らしい生活空間となっている。	部屋の見学の承諾を得た利用者の部屋を覗かせていただく。ベッド、加湿器以外は持ち込みで、利用者の筆筒、仏壇、鏡台などの家具をはじめ、趣味の書籍、折り紙、塗り絵、書道、編み物道具など、なじみのものが持ち込まれ、個性的な室内になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーとなっており、玄関には階段とスロープが設置。トイレも3カ所となっている。家庭風呂ではあるが、小規模にはリフト浴があるため使用する事も可。手すりもあり安全に配慮した建物となっている。		